

泌尿紀要  
Acta Urol. Jpn.

Vol. 29, No. 10 ACTA UROLOGICA JAPONICA October 1983

# 泌尿器科紀要

第29巻 第10号 1983年10月



上部尿路上皮性腫瘍の臨床的観察 第1編: 原発性腎盂腫瘍	平松 侃・ほか	1191
上部尿路上皮性腫瘍の臨床的観察 第2編: 原発性尿管腫瘍	平松 侃・ほか	1205
各種抗菌剤の雄性性器内移行に関する基礎的研究	片岡 頌雄	1219
前立腺癌における血清前立腺性酸 フォスファターゼの腫瘍マーカーとしての意義	濱見 學	1231
思春期および成人停留睪丸患者の睪丸機能 一下降側と停留側との比較	吉田謙一郎・大島 博幸	1247
腎腫瘍の臨床的検討	玉井 秀亀・ほか	1255
尿路結石治療漢方薬のラットにおける 尿中尿酸排泄におよぼす効果 (英文)	小川 由英・ほか	1269
真菌性尿路感染症の臨床的考察	竹内 秀雄・ほか	1273
薬剤の膀胱壁透過性に関する研究 第5報: ホルマリンの膀胱腔内注入について (英文)	河村 信夫	1279
Percutaneous Transluminal Angioplasty を試みた 単腎患者の腎血管性高血圧症の1例	佐藤 滋・ほか	1287
腎動静脈瘻の2例	田島 政晴・ほか	1295
陰茎折症の4例	大西 周平・ほか	1301
家族性膀胱尿管逆流	吉岡 俊昭・ほか	1307
同側の腎發育不全および尿管精囊腺開口を伴った精囊腺嚢胞の1例	平野 敦之・ほか	1315
Eosinophilic cystitis の2例	平野 章治・ほか	1329
膀胱エンドメトリオシスの1例	亀岡 博・ほか	1339
腎悪性リンパ腫の1例	伊藤 康久・ほか	1345
対側腎に腎細胞癌の発生をみた腎結核の1例	打林 忠雄・ほか	1351
腎盂自然破裂の1例	打林 忠雄・ほか	1359
膀胱および尿道異物の統計的観察	仲谷 達也・ほか	1363
前立腺特異抗原の組織内局在の検討	岡野 学・ほか	1369
Cefotiam の急性膀胱炎に対する臨床効果と 尿中 E. coli の形態変化について	和田志裕人・ほか	1373

京都大学

84026263

図書

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M.D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,  
Kyoto University, Kyoto, Japan 606

京都大学医学部泌尿器科教室

禁帯出

到着後 1ヶ月間

## 購読要項 (1983年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料 6,000 円 (送料とも) を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部あて、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

## 投稿規定 (1983年8月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
  - (i) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文7頁 (400字×28枚程度) 図 (Fig) 10枚、表 (Table) 5枚までとする。
  - (ii) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
  - (i) 原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名の順に和文、英文で併記する。下段に筆頭著者名 (山田：または 山田・ほか：) と、2語 (例：前立腺がん・PSAP) からなる running title および5語 (英文) 以内の key words を付す。
  - (ii) 英文抄録：ダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
  - (iii) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず) の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
  - (iv) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg,  $\mu$ g, %, °C, pH などとする。
  - (v) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はトリミングする。説明文は一括して記載し和文、英文を問わず Table 1., Fig. 2. などとする。英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。とくに図・表は必ずタイプまたは楷書で清書し、誤りのないことを確認する。とくに、著者校正時、表中の数字の訂正をされないように願います。様式については本誌の図・表を参照する。
- (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用個所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。  
(例：山田<sup>1,3,7)</sup>, 田中ら<sup>1,3-10)</sup>によると)  
雑誌の場合—著者名 (全員)：題名、雑誌名  
巻：最初頁～最終頁、発行年  
単行本の場合—著者名 (全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
- (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部がおこなう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。
- (9) 編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
3. 掲載
  - (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
  - (2) 紙代、印刷費および最初1頁の組版費は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後におこなう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
  - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機具の使用などにかんする研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。
4. 別刷
 

実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

宮崎 重	新谷 浩
吉田 修(主幹)	